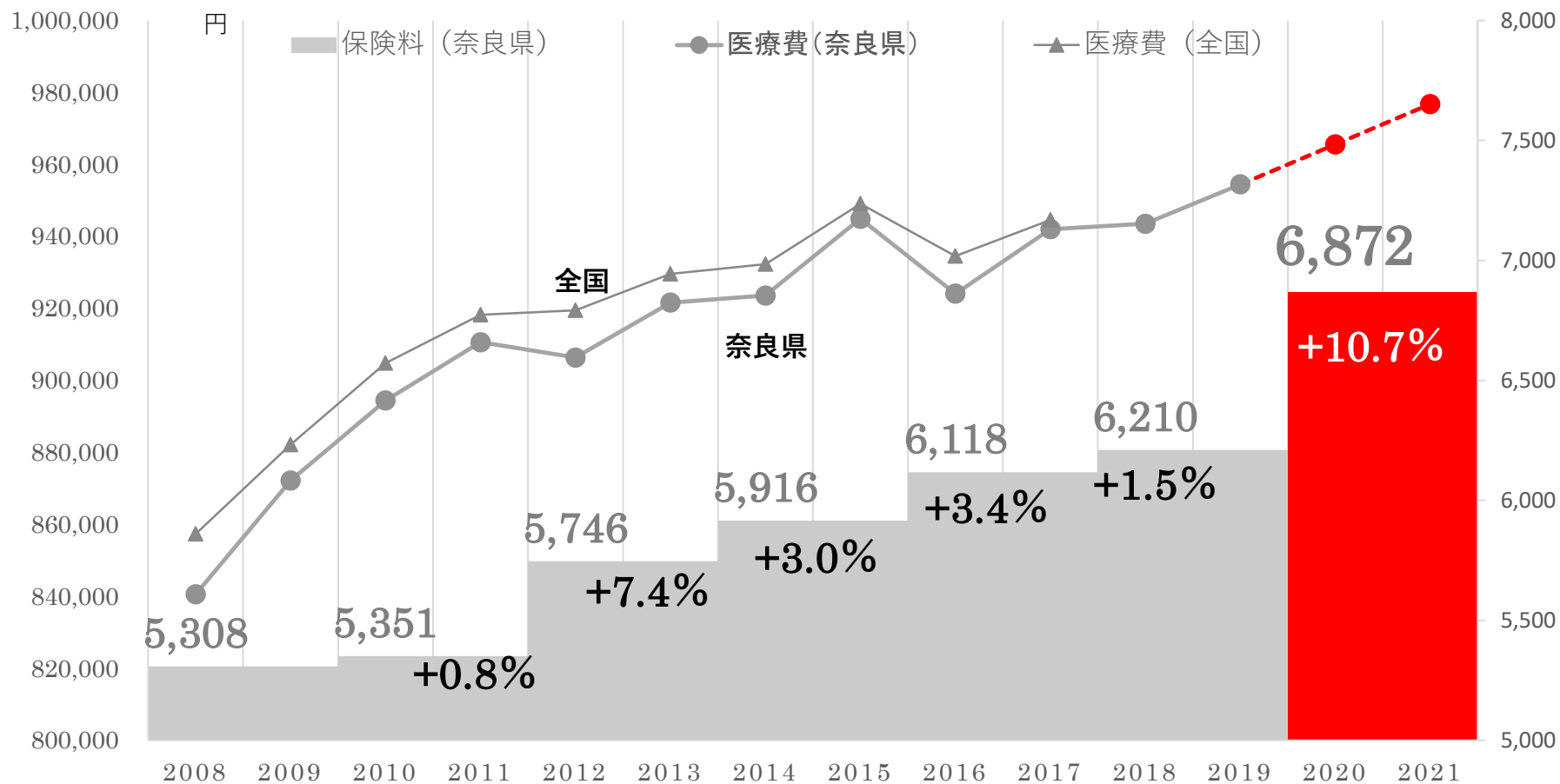


■ 次期保険料は、**約10.7%上昇する見込み**

rf. 一人当たり平均保険料額（月額）

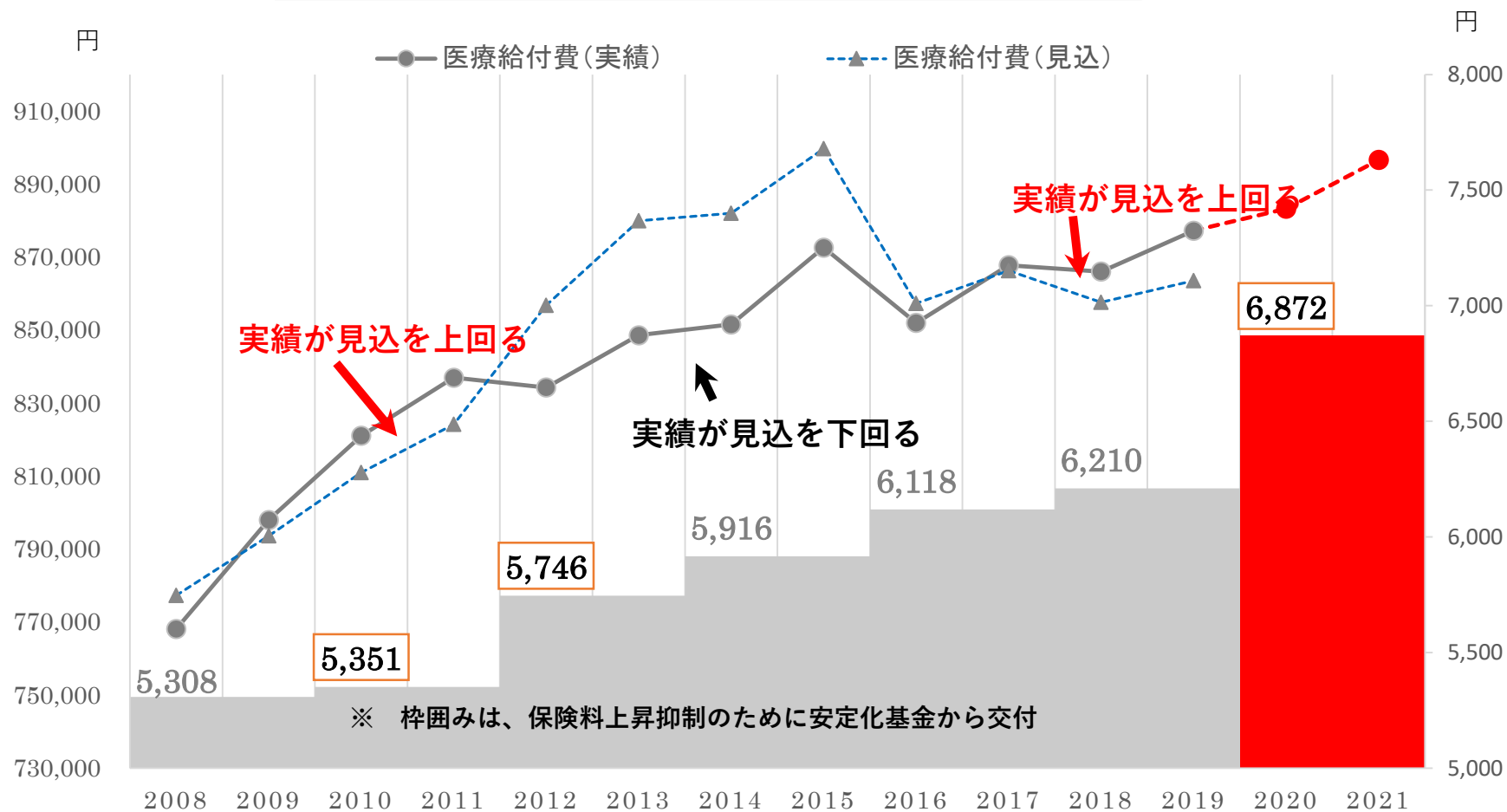
現行6,210円 → 次期保険料6,872円 ※増減 +662円（+10.7%）

一人あたり医療費と平均保険料額（月額）の推移



- 2018年度（平成30）から保険給付の**実績が見込を上回る状況が続いている**
 ※ 見込を超過した給付額の約1割相当は、保険料収入の不足として収支が悪化
- 見込とのギャップを埋めにいこうとすると **保険料率を上げざるを得ない**

一人あたり医療給付費（実績・見込）と保険料の推移



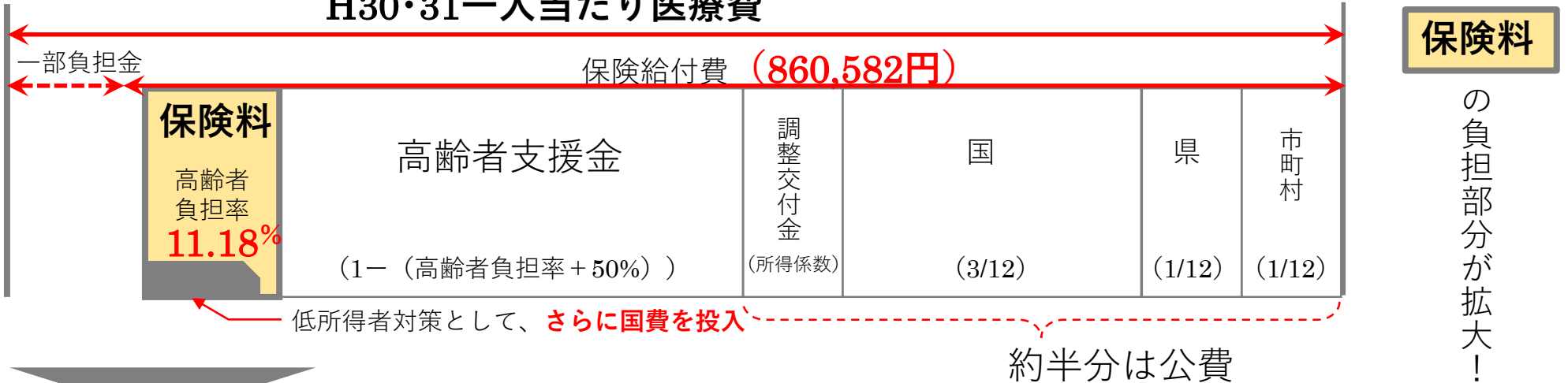
令和2・3年度保険料率について

～ 保険料率の主な上昇要因 ～

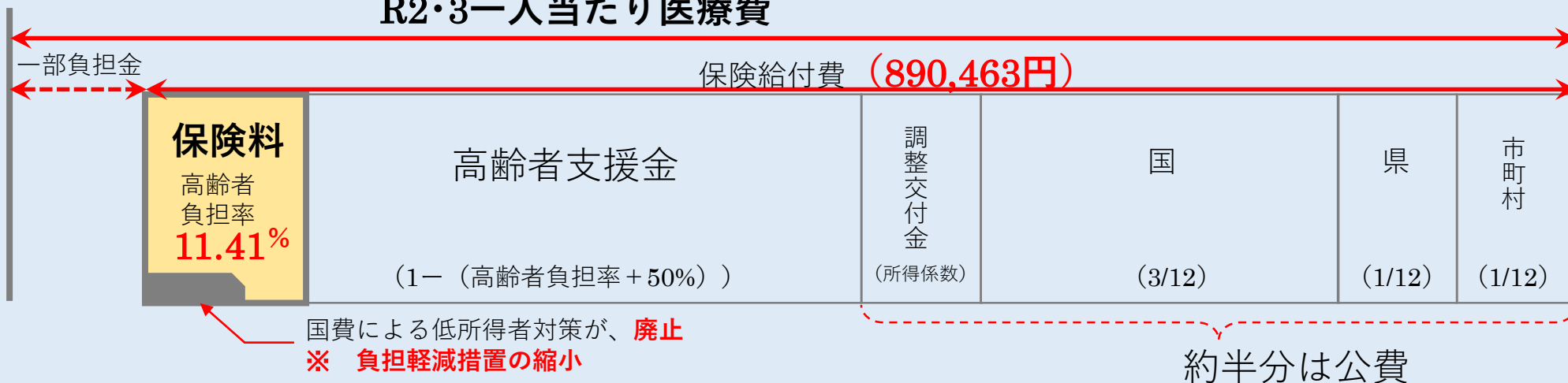
- **医療費の増加に伴う給付の増加** (③③算定基礎860,582円 → ②③算定基礎890,463円 **+3.47%**)
- **高齢者の増加による高齢者負担率の上昇** (③③11.18% → ②③11.41% **+2.06%**) ※政令で都度改正
- **制度改正による受益者負担の増加** (③③軽減措置▲21.01 → ②③軽減措置▲17.60 **+4.33%**)

Total 1.0347 × 1.0206 × 1.0433 **≒10.2%**

H30・31一人当たり医療費



R2・3一人当たり医療費



- 国の算定ルールに従って算定すると、
一人当たり平均保険料は月額7,196円となり、
現行（6,210円）から約15.9%上昇

- 主な要因として

- 医療費の増加に伴う給付の増加（+3.47%）
- 高齢者の増加による負担率の上昇（+2.06%）
- 制度改正（受益者負担の変更）による影響（+4.33%）

Total $1.0347 \times 1.0206 \times 1.0433 \div 10.2\%$ の増加要因

差引き約5.8%は、前回の算定において内部留保（繰越金・基金の取崩し）を投入して上昇を抑制した割合

- **今回も保険料率の上昇を抑制するために、**

- ★ 今回の算定にあたって、保険運営上の内部留保（剰余金約15億円）を全額投入して上昇抑制を図る
∴ 月額6,954円（+12.0%） ※約3.9%圧縮

- ★ さらに、県に設置されている財政安定化基金からの支援（5億円の交付）により、上昇抑制を図る

∴ 月額6,872円（+10.7%） ※約1.3%圧縮

※ Total 約5.2%圧縮